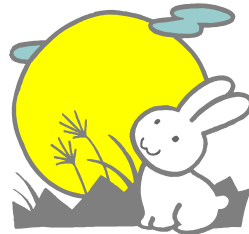


# 不二速報



発行日 2009年10月1日

第7号 全大教全国教職員研究集会報告号

## 全国教研集会にご参加・ご協力ありがとうございました！

9/4~6 全大教第21回全国教職員研究集会 in 静岡大学

全大教教職員研究集会は大成功のうちに無事終了することができました。報告者の皆様、参加者の皆様、また準備に協力してくださった皆様には、深く感謝します。

今回の全国教研により、静岡大学の課題も一層よく見えてきました。これを機会に、組合活動を活性化させていく覚悟です。ご協力をお願いします。  
執行委員長 村山功

### 全国教研を引き受けて

学内外からとても多くの方に参加いただいて、元気づけられた思いがしています。興学長には来賓挨拶にとどまらず、交流会にも参加していただきました。交流会では、静岡大女性部の手作りの団扇が配られ、また静岡の名産・銘酒が供されるなど、静岡大学のホスピタリティが全国のみなさんに十分に伝わる会となりました。そして二日目からはじまった分科会では、組合員のみなさんに、多くの課題についてご議論をしていただきました。9-10月にかけて支部・専門部で協議や職種別懇談会がありますが、その成果を組合活動に、そしてまずは団体交渉に向けて活かしていただきたいと思います。  
書記長 田中伸司

### 静岡大学教職員組合の皆さま

全大教第21回教職員研究集会を成功に導いていただきありがとうございます。

集会には、未加盟大学を含め65大学・高専、260名という多くの参加を得ました。また、現地静岡大学からも51名もの参加を頂きました。レポートは近年で最高の数となりました。

今回の教研集会には重要な目的がありました。法人化第1期と第2期をつなぐ節目の年に開かれた今集会では、第1期中期目標を総括し、第2期に向けて大学・高等教育充実の方向性を探ることです。全体集会での2つの講演と12の分科会での熱心な交流、討論を通して基本的には問題の共有ができたものと思います。それは参加者の感想文でも出されています。

夜の交流会での美味しい地酒と名産のお料理もとても好評でした。私自身も大満足です。快適な環境の中で有意義な連帯空間を準備下さり本当にありがとうございました。

全大教執行部としては、単組と共同して当面する賃金切り下げ反対、第2期中期目標期間での国立大学法人法等の改革などの大学・高等教育充実の課題と合わせて組織の拡大・強化にまい進していきたいと思えます。

今後とも連帯して頑張りましょう。

全大教書記長 森田和哉



日中は駿河湾を望める教室で静岡を感じ、夜は交流会で「磯自慢」を自慢気に(?) 勤められ舌で静岡を堪能♪  
う〜ん確かに美味しい！  
明るい方々との交流、「歓迎」の文字躍る手作り団扇…  
静大の皆さんの心意気に感謝感激でした！  
全大教書記 増田茂美

静岡大学教職員組合  
http://www.jade.dti.ne.jp/  
~suu/

静岡：  
〒422-8529  
静岡市駿河区大谷 836

TEL/FAX:  
054(236)0173 (直)  
2790 (内線)

E-mail  
suu@jade.dti.ne.jp

浜松：  
〒432-8561  
浜松市中区城北三丁目 5-1

TEL/FAX:  
053(475)9035 (直)  
3910 (内線)

E-mail  
suu-seibu@vcs.wbs.ne.jp

目次：	
全国教研無事終了	1
全体集会報告	2
分科会報告	3.4

団体交渉 11月に  
浜松で開催予定！



**開会集会 9/4(金) 13:00~17:30 於: 共通教育B棟301教室**

挨拶(全大教、学長、教職組等来賓・メッセージ)  
記念講演 基調報告 特別講演

**記念講演「国立大学・法人化の行方」**

講師 天野 郁夫 氏(東京大学名誉教授)

開会集会直後に続く記念講演では、高等教育研究における第一人者である天野郁夫氏に、国立大学法人化の現在と行方についてお話いただいた。先の総選挙での民主党への政権交代を受けて、国立大学の法人化が今後どうなっていくのかについて会場の関心は高く、多くの組合員が熱心に耳を傾け、真剣にメモを取る姿が見られた。天野氏によれば、競争原理と予算の傾斜配分を導入した法人化第一期の評価をベースに、第二期の予算が決まってくることになる。ただ、本来まず時代の変化を押さえたしつかりとした国家戦略のグランドデザインがなければならぬとお話であった。お話を聞いて私は、新政権の打ち出す教育・研究政策がいかにわれわれの職場に影響を及ぼすのかを、広い視野で意識的にチェックしつづける必要性を強く感じた。

吉田 寛(情報学)

**特別講演 「地方国立大学及び附属病院の経営等をめぐる状況について」**

講師 豊田 長康 氏(三重大学前学長)

豊田先生の話聞いて、先ず感じたことは、「非官僚的」な話し方だなあということです。この親しみのある口調と強いリーダーシップのお陰で、消滅する大学の一例として名指しされた不名誉を払拭すべく、学生も含めて大学が一丸となって改革にとりくむことができたのではないかと、勝手に想像しています。また、文科省や当局との交渉においては、自己防衛の論理と受け止められないよう、客観的データを積極的に集め詳細な分析に基づく主張が必要であることを、教えられました。

厨子光政(情報学部)

**交流会 9/4 18:00~20:00 於: 生協第2食堂**

静岡の地酒とおいしいもので、おもてなし・・・磯自慢 喜久酔 開運 初亀・・・  
・・・静岡おでん うなぎ 桜えび マグロ カツオ 黒はんぺん わさび漬け・・・  
食べて飲んで、全国の仲間と交流しました！

・・・全国の参加者の皆さまから、料理もお酒も大変美味しかったと感想をいただきました。

**番外編 全国の皆さんに大好評だった「うちわ」**

交流会会場に冷房がない！ 団扇でも配る？ それなら手作りで、そしてリサイクルで・・・団扇作戦開始！ うちわの骨は、あっという間に100本を超えて集まり、折り染めをしたり、絵を描いたり、そして歓迎の文字を入れ、素敵な団扇が完成しました。浜松キャンパスでは、8月下旬の昼休み、書記局に集まって、染める・描く・貼る・切る・・・の作業を楽しみました。実は、退職者(勝野さん、大畑さん)の手もお借りしました。

交流会の会場は、やはり暑く、参加者全員で団扇をばたばたしている姿は、圧巻でした。皆さん大喜びで大事に持ち帰られました。ご協力ありがとうございました。 書記 古村由貴子

**特別分科会 「法人化6年—研究教育、管理運営」**

9/5(土)9:30~9/6(日)11:45

2日間にわたって、論議が交わされました。

静大からも、滝欽二さん(農学部)が、「静岡大学における法人化後の就業規則の変遷」、鳥畑興一さん(人文学部)が、「国立大学法人における学長選の在り方について」というレポートを発表されました。内容については、次号以降の不二速報で紹介する予定です。

**分科会A 9/5(土)9:30~15:00****A1 法人化6年-職員の賃金・労働条件改善について**

職員の賃金・労働条件改善について、事務職員、技術職員、非常勤職員、一部教員の出席のもと、活発な話し合いが行われた。昇格問題では、2003年度の昇格基準(5%減)がそのまま使われ、法人化以降、給与が上がらない不満の声が出された。また、法人化以降のパートの3年雇用問題では、組合側の弁護士は、労働法上は違法であると言っていたが、人件費削減や期待権、最近では入職の際の契約書に3年任期が明記されるなど「そんな甘いものじゃない」という現場の意見も出された。

労使協定で時間外労働時間を月80時間などとしている大学では、例えば過労死した場合、過半数代表者が協定にサインしたことで責任を問われることがあるとの問題提起もあった。

再雇用問題では、静大では30時間パートが当たり前のよう就業規則に定められたが、集会参加の多くの大学では、40時間の常勤であることが分かり、全国の情報収集の必要性を感じた。

今まで教研集会では、技術職員の分科会にしか参加したことがないので、他職種との交流ができ、新鮮に感じた。

静大で開催された教研集会は今回で3回目の参加となり、毎回参加者が減っているのを残念に感じる。これからも全国の組合の交流の場として盛り上げていかなければと実感した。

増田健二(工学部)

**A2 大学等における教育実践**

報告は午前3件、午後2件で、午前中の3件はいずれも各大学における「特色GP」に関する内容であった。指摘された問題の多くは、2~3年の補助金期間終了後、その取り組みをどう継続してゆくか?という点に集中していた。これは本学における幾つかの「特色GP」にも全く当てはまる。ただ、議論の多くが予算絡み(人をどう雇い続けるのか等)に集中し、その取り組みの教育効果とか意義についての議論が希薄だった印象は否めない。松田は「一地方国立大学工学部教員の教育実践例」と題して、主に教養教育に関わる諸問題を報告し、大学上層部の教育に対する「哲学」が結局はカギになるのではないかと問題提起したが、さしたる議論もないままに分科会は終了した。出席者が前回の3~4人から十数人に増えたという話を聞いたが、分科会の狙いや構成を十分に練らずに「出たところ勝負」で運営している様子が明らかであった。

松田智(工学部)

**A3 男女共同参画**

男女共同参画分科会は、9月5日の午前9時半から午後3時まで開催され、参加者数のべ46人(うち男性13人)、参加単組は28と、大変盛況で、充実した分科会でした。

最初にホスト校として、組合(女性部)としてのまた大学としての男女共同参画の取り組みを報告しました(女性部としての活動には反省しきり)。印象深かったのは、秋田大や岩手大で産後休暇12週を実現していることや、男性教職員の育児参加休暇制度の導入(有給で2週間!)です。また名古屋大学の学内保育所や学童保育の意欲的な取り組みにも感銘を受けました。



静大でも一つでも実現できればいいなあと思います。

笹原恵  
(情報学部)

**A4 教員養成系大学・学部問題**

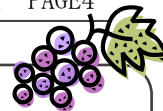
本分科会は、午前中に5つの大学から報告があり(私も1本報告してきました。静大からは3名の出席者、全体で15名ほど)、午後は議論にすべての時間を費やしました。午後は早々に終わるだろうという私の読みと期待はみごとにはずれ(?)、議論は最後まで非常に活発なものでした。そこでは、教員免許更新制実施上の問題や今後の現職教育の展望、教育学部教員数の削減問題、そして人件費比率の高い単科大学の経営上の問題などについて話し合われました。これらの問題は大学単独で解決できるものではないため、今後とも全大教に結集して取り組む必要性を痛感した次第です。

丹沢哲郎(教育学部)

**分科会B 9/5(土)15:15~9/6(日)11:45 於:共通A棟****B1 過半数をめざす組合づくりと組合活動の改善**

5つの教職員組合より報告がありました。わが静岡大学と、名古屋工業大学、岡山大学、徳島大学、そして当日レポート持ち込みの信州大学です。質疑では、とくにチェックオフ協定と大学病院の非常勤職員(看護師)の話題をめぐって、たくさんの大学から情報提供があり、意見交換が行われました。そのなかで、名工大は一度大きく組合員数を減らし、そこからカムバックされたとのことでしたが、レポートでの「説得されて加入された方や時局的な問題で加入された方は数年で脱退される・・・大学構成員全体の相互信頼関係を築くことが、組合員拡大の急がば回れだ」という結語が印象的でした。個別の課題ももちろんのこと、教職員のみならずの大学へのコミットメントを高めるように働きかけることの重要性を再認識しました。

田中伸司(書記長)



**B2 教員**

教員を取り巻く問題は、法人化以降の教員の多忙化が改めて問題とされた。極端な多忙化によるメンタルヘルスの問題、そして研究時間の確保といういみでサバティカルの問題が議論された。報告そして会場からの意見では、どの大学でも法人化のもとで教員はますます多忙を極めるようになってきている。特に仕事ができつつ仕事を断れない教員への、仕事の集中は異常な程度になっていると言える。そこで、議論はそうした教員の適切な評価の問題へも及んだが、この問題は難しい論点を含み安易な解は見いだせないようだ。サバティカルや休日については、制度が整備されてきているが、実質的にはそれを利用することは困難な状況が未だあるようだ。状況は厳しいが、力を合わせて少しでも好転させていかなければならない。

吉田寛 (情報学部)

**B4 技術職員**

私にとって全国教研は2004年に開催されたものに参加して以来の参加であった。参加者は25名程度といった中で行われたのだが、報告されるレポートに関して活発な質疑応答が行われた。各大学の独自に解決できた問題があるものの、共通する問題として「技術職員の年齢構成」「技術職員の応募が少ない」といったところが見えてきた。これらの解決策として特効薬的なものはなかなか見つからないかもしれないが、いろいろな意見や方向性を示す議論の中で、それらを取り入れながら不断の努力により解決しなければならないものと感じた。

水野隆 (工学部)

**B5 図書館職員**

誘われて、飛び込みで初日だけ参加いたしました。名大、京大の報告と全大教図書館職員部による現状分析。おまけとして、気を使っていたか、静大の現状などを報告させていただきました。(愚かにも準備していなかったもので、しどろもどろ) 本格的な議論は夜の親睦会、ならびに翌日ということで、私事とバッティングしたとはいえ、参加できず残念なことをしました。

真中進 (図書館)

**B8 非常勤職員**

私は、9月5日の非常勤職員分科会へ参加させていただきました。パート職員雇用期限問題、正規職員登用制度、労働条件改善の成果等について5つの大学から報告があり、質疑応答で他の大学の話も伺えました。

今、派遣職員や外注の方が増え、パート職員の数が減ってきて活動が狭まっていると思っていたのですが、パート職員のことについて組合でいろいろな活動をしていただいていることを知り励まされました。ぜひ今回の内容を、組合員ではない方にも伝えたいと思います。

山梨栄子 (教育学部)

.....

はじめまして。この春から新しく組合に加入させていただきました。

私は非常勤職員の分科会に出席させていただきましたのですが、各大学の具体的な取り組みの様子がわかりとても勉強になりました。

特に、「静岡大学は全職員数に占める非常勤職員数の割合が他大学と比べてとても高く、もはや非常勤職員の力なくしては、大学の運営自体が非常に困難であろう。」と他大学の代表の方から言われたときに、はっとしました。

また、私達非常勤職員には女性が多数在籍していることから、組合活動は全ての女性職員に関連のある「男女共同参画社会」の実現にも深く直結しているとのこと。

私も、地域の見本となるべき静岡大学をささえている非常勤職員のひとりとして、もう少し自分たちの働く環境及び待遇等に関心を持たなければいけないのだと反省しました。

他大学ではすでに、非常勤職員の雇用3年期限を6年に延長、また事実上の撤廃となったところもありました。簡単な評価制度をとり入れたり、各大学いろいろ工夫していました。

もちろん、非常勤職員から正職員への採用も行われているのですが、その取り扱い方をめぐってどこの支部も経営側と模索しながら繰り返し協議をすすめているようです。

私も自分のできる範囲の中でありますが、今後も感心を持ち、活動に協力させていただけたらと思います。

望月ゆり子 (教育学部)

閉会集会 9/6(日)12:00~13:00 於: 共通A棟201



分科会のレポートや詳しい議論などは、続く不二速報で順次紹介する予定です。

